

前田香雪 まへだのかげり 歌人、小説家、書畫鑑定家。天保十一年一月六日江戸生れ、大正五年十一月十一日歿（二八四―一九六）。講自繁、幼名猪之吉・犬吉、通稱健次郎。別號うぐいす園のあむし、夏重、大庚山人、小羅浮山人、小羅浮河主人、小羅浮舎山人、横斜生、疎影閑人、金衣公子、金衣山人、錦衣山人、香雪居士、香雪山人、香雪散史、鸞園等。國學者前田夏蔭の子。維新後新聞界に入り、朝野新聞等と關與して、瓜島柳北と親交。新聞小説初期の作者の一人。後年美術界で活動した。

著書 口 鱗宅叢談（一名十）口 徒物語 口 （香雪散人名、明治二十一年七月一日春陽堂）、口 阿毘曇太后と佛教 口 （前田健次郎名、合著・法藏館編輯部編、大正二年五月十五日京都・法藏館）、口 書畫鑑定秘録 口 （香雪散人名、大正八年二月十七日文海堂）等。